

「横のつながり」が技術や世代をつなぎ、顔の見える関係がビジネスを育てる。

近年、産業構造全体の中でのものづくり企業に求められる役割も変化した。受注の減少、現状への危機感、取引先のニーズの変化、成長分野への展開など一社の経営資源では対応できない、直面する課題や新たなニーズにも対応していくために企業は連携に取り組んでいる。連携活動をうまく進めていくには、ビジネスのみのつながりだけでなく、個々のメンバー企業にとってメリットにつながるような相互の理解、技術

を高める取組みを同時におこなう必要がある。

今回登場いただいた3社は「イノベーションを世界に発信する」「地域のブランド化を目指す」「地域の中小企業がつながり成長する」といった目的で同業者や異業種と連携している。同じ目標や志を持つ「仲間」とつながり、さまざまなことに挑戦するなかで、連携を維持するための苦労やそこで得られたことなどについて語っていただいた。



左から

中橋製作所

代表 中橋 修司氏

成光精密株式会社

代表取締役 高満 洋徳氏

柘谷熔接所

代表 柘谷 篤司氏

顔の見える関係性を大切に「つながる町工場」を目指す。



高満 「世界のものづくりの課題を解決する」というビジョンを掲げた「Garage Minato (ガレージ・ミナト)」を2018年4月から運営しています。コンセプトは「町工場の減少とそれにとまなう技術者の減少」

「下請構造からの脱却」という課題の解決。次世代育成、町工場の技術共有と継承、町工場が持つ技術・ノウハウと、研究者・技術者・ベンチャー企業が持つアイデアや先端技術を合わせて新事業創造を目指すオープンイノベーション拠点です。またGarage Minatoのスーパーファクトリーチームとして月1回セミナーをおこない、顔と顔を合わせながらの関係性をつくりつつあります。

中橋 スーパーファクトリーチームには、私もエントリーしています。柘谷 僕も入っています。

高満 現在30社ほどで、もっと増やしたいんですよね。さらに課題として、ここ20年ほどで技術者や町工場数が大きく減少しています。この傾向が続くと、日本のものづくりにとって技術継承も含めて

大きな損失となります。また下請構造からの脱却も必須で、これは一社依存構造のため顧客が研究開発を内製化されたり、海外に製造拠点を移したりしたときに生き残っていきません。あと町工場同士の連携が全然ないんですね。

柘谷 それはわかります。僕たちが経営を学ぶにしても、町工場は横のつながりが全然ないので深い話もできない。



高満 卓越した技術を持っているがゆえに専門性が高く、逆にほかの技術がまったくわからない。それなら町工場同士が知り合って一緒にできるネットワークをつくらうと。スタートアップのアイデアを